

戦後70年の2015年は戦争経験者の記憶をアーカイブすることについてのニュースを多く目にしました。ひとつの事柄に対して様々な捉え方をする私たちに個人の記憶を本質的な意味で共有することは可能なのでしょうか。

記憶のはがし方プロジェクトとは物質の変容や痕跡から記憶を探る試みです。プロジェクト2回目となる本展は過疎化が進む地域の家屋を取り上げ、その外壁と屋根をインクと樹脂によってはがし取ります。住んでいた人や所在地などの固有性から切り離された「私たちの日本」における「私たちの家」が、記憶を透過させ新たな共有の形を創出します。



記憶のはがし方プロジェクト

日本家